岩国市

Press Release
報　道　通　知

令和２年８月２６日

件　名　岩国飛行場におけるＦ－３５Ｂへの機種更新について（事後）
概　要　このことについて、防衛省から、市長等へ説明がありましたので、下記のとおりお知らせします。

記

１　日　時：令和２年８月２６日（水）９：３０～９：５０

２　場　所：岩国市役所３階　政策審議室

３　来訪者：防衛省地方協力局長　鈴木　敦夫（すずき　あつお）
防衛省中国四国防衛局長　森田　治男（もりた　はるお）
外務省北米局参事官　有馬　裕（ありま　ゆたか）

４　応対者：岩国市長　福田　良彦（ふくだ　よしひこ）
岩国市議会議長　藤本　泰也（ふじもと　やすなり）
岩国市議会副議長　片岡　勝則（かたおか　かつのり）

５　説明の概要

（１）鈴木局長の冒頭発言

○　我が国の安全保障の観点から、日米同盟及び自衛隊や米軍の活動について、多大な御理解と御協力を賜り、感謝申し上げる。
○　本日は、岩国飛行場のＦ－３５Ｂへの機種更新に関する概要について説明するために、伺ったところである。
○　その前に、この場を借りて、岩国飛行場は、米海兵隊の航空機を始め、米海軍の空母艦載機部隊、海上自衛隊の航空部隊も、配備・運用されており、これらを受け入れられていることに、深く感謝申し上げる。
○　防衛省が、国の安全保障のために、必要な施策を進めるに当たっては、地元の御理解と御協力を得ることが大変重要と認識している。
○　本日は、このような観点から、Ｆ－３５Ｂの機種更新の計画・概要について、説明する。

（２）有馬参事官の冒頭発言

○　岩国は、米海兵隊及び我が国の海上自衛隊が駐留する、日米安全保障体制にとって極めて肝要な土地である。岩国市におかれては、日米安全保障体制に対する深い御理解をいただき、米軍との関係で日本国内でもモデルと言えるような関係を構築されていることに、深い敬意を表したい。
○　日ごろ米軍との間に極めて良好な関係を構築していただき、また他の地域

次頁に続きます

の負担の軽減などにも取り組んでいただいていることについても、改めて感謝を申し上げる。

（３）鈴木局長から説明

○　Ｆ－３５Ｂの我が国への配備については、２０１３（平成２５）年の、日米「２＋２」共同発表において、米海兵隊Ｆ－３５Ｂの米国外における初の前方配備が、２０１７（平成２９）年に開始する予定であることを確認した。

○　その後、岩国市の御理解をいただき、２０１７（平成２９）年の、１月と１１月に、岩国飛行場のＦＡ－１８ホーネット部隊とＡＶ－８Ｂハリアー部隊が、Ｆ－３５Ｂへ機種更新された。

○　そうした中、今般、米側から、本年１０月以降に、岩国飛行場のＦＡ－１８ホーネット部隊が、Ｆ－３５Ｂへ機種更新を開始する予定である旨の説明があった。

○　機種更新の概要について説明すると、

・　本年１０月以降に、岩国飛行場のＦＡ－１８ホーネット２個部隊のうち、１個部隊（約１２機）を、Ｆ－３５Ｂ（約１６機）へ段階的に機種更新する。

・　機種更新されるＦＡ－１８ホーネット部隊は、米軍の部隊交代計画を踏まえ、米本土へ移駐する。

・　ただし、新型コロナウイルス感染症の関係で、Ｆ－３５Ｂへの機種更新の開始時期や終了する時期、また、ＦＡ－１８ホーネット部隊の米本土への移駐時期等について、米側内部で調整中

というものである。

○　我が国を取り巻く安全保障環境が一層厳しさを増すなか、このＦ－３５Ｂへの機種更新は、日米同盟の抑止力を強化し、日本及びアジア太平洋地域の安定に寄与するものと考えている。

○　この度のＦ－３５Ｂの機種更新については、前回（平成２９年）の機種更新と同様に、米国のアジア太平洋地域重視政策（リバランス政策）の一環であり、日米同盟に対する米国のコミットメントを示すものである。

○　岩国市におかれては、御理解と御協力を賜るよう、よろしくお願いする。

（４）福田市長からの質問及び鈴木局長からの回答

（福田市長）

○　先程、「Ｆ３５Ｂの機種更新は日米同盟の抑止力を強化し、日本及びアジア太平洋地域の安定に寄与するもの、また、日米同盟に対するコミットメントを示すもの」と言われた。

○　基本的な点を確認するが、今回のＦ３５Ｂの機種更新は、米側だけでなく、接受国の日本政府として、必要性があるものと考えているのか。

（鈴木局長）

○　Ｆ－３５Ｂの岩国飛行場への配備については、日米両政府がその必要性を確認しているものである。

○　したがって、我が国の安全保障のため、Ｆ－３５Ｂの岩国飛行場への機種

次頁に続きます

更新について、御理解と御協力を賜りたい。

（５）福田市長からの質問及び鈴木局長からの回答

（福田市長）

○　次に機種更新について、現在のＦＡ－１８ホーネットの航空機が、Ｆ―３５Ｂに、入れ替わるという理解でよいか。

○　この入れ替えに伴い、現存の部隊や航空機、人員について、更新後の部隊や航空機、人員との併存期間はどのようになるのか。また、この部隊は常駐部隊であるのか。

○　また、機種更新後、岩国基地の米海兵隊では、２常駐部隊と１ローテーション部隊で引き続き運用されるという理解でよいか。そして、このローテーション部隊において、今後、Ｆ３５Ｂへの機種更新の予定があるのか。

○　さらに、先日（８月 12 日）、事故再調査報告について説明があり、当該事故を起こした２４２部隊の今後の人員配置について、人員配置方針を変更し、初回勤務者については最も能力の高いものを配置するなどの取組を行うとのことであったが、現在常駐しているＦ―３５Ｂの部隊並びに機種更新で岩国基地に来るＦ３５Ｂの部隊には、その方針が反映されるのか。

（鈴木局長）

○　まず、この度の機種更新の具体的な計画に関する質問について、米側からは、本年１０月以降に、岩国飛行場のＦＡ－１８ホーネット２個部隊のうち、１個部隊（約１２機）が、Ｆ－３５Ｂ（約１６機）へ段階的に機種更新される旨、説明を受けている。

○　この機種更新の対象となるＦＡ－１８ホーネット部隊は、岩国飛行場に常駐している、海兵第２４２全天候戦闘攻撃中隊（いわゆる第２４２部隊）と認識している。

○　また、残りのＦＡ－１８ホーネット部隊は、岩国飛行場にローテーション展開している部隊であると認識している。

○　この第２４２部隊が、Ｆ－３５Ｂへ機種更新されるものと認識しているが、これ以上の情報については、引き続き、米側と協議するなかで、更なる情報が得られれば、速やかに、説明する。

○　次に、既存部隊と機種更新されるＦ－３５Ｂとの併存期間に関する質問について、米側からは、本年１０月以降、段階的に機種更新が行われ、全ての部隊運用が完了するまで、一定期間を要すると説明を受けている。

○　ただし、新型コロナウイルス感染症の関係で、具体的な機種更新の開始時期や、既存部隊の米本国への移駐時期について、米側内部で調整中とのことであり、引き続き、米側と協議を行い、これらの情報が得られ次第、速やかに、説明する。

○　最後に、岩国飛行場の部隊の人事配置方針に関する質問について、現在、米側に対して、情報提供を求めているところであり、その情報が得られれば、速やかに、説明する。

次頁に続きます

（６）福田市長からの質問及び鈴木局長からの回答

（福田市長）

○　前回（平成２９年）の機種更新では、Ｆ－３５Ｂが国内初配備ということで、安全性の問題が議論となった。

○　岩国基地では、平成２９年の初回配備以降、安全な運用が行われているものと理解しているが、地域住民の中には依然として不安の声もある。

○　ついては、岩国飛行場のＦ－３５Ｂについて、これまで、大きなトラブルや運用上の支障などがあったのかどうかをお尋ねする。

（鈴木局長）

○　Ｆ－３５Ｂについては、米政府が、その安全性や信頼性を確認した上で量産されている。防衛省・自衛隊はＦ－３５Ｂの導入を決定しており、飛行の安全に影響がないことを防衛省としても確認している。

○　Ｆ－３５Ｂの飛行運用にあたっては、機体の安全性はもとより、安全を始めとする地域住民の生活に対して、最大限の配慮がなされることが重要と認識している。実際に、平成２９年から、岩国飛行場において、安全に運用されているものと承知している。

○　今後とも、引き続き、Ｆ－３５Ｂを始めとする、米軍機の運用において、より一層、これまで以上に、安全管理に万全を期すよう、米側に対して、累次の機会に求める所存である。

（７）福田市長からの質問及び鈴木局長からの回答

（福田市長）

○　今回は、機種更新であるが、騒音による住民生活への影響が懸念される。

○　今回の機種更新に伴い、Ｆ－３５Ｂの機数が最大で４機増えるとのことであるが、運用回数が増えることにより、騒音も増えることを懸念している。騒音の変動をどのように見込んでいるのか。

○　また、平成２９年の機種更新については、国において騒音予測コンターを示しており、今回についても、騒音の影響を、より分かりやすくするため、予測コンターを作成されるようお願いする。

（鈴木局長）

○　平成２９年のＦ－３５Ｂの一度目の機種更新の際に、示した騒音予測コンターにも記載しているとおり、Ｆ―３５ＢとＦＡ―１８ホーネットとの騒音データを比較すると、Ｆ―３５Ｂは、離陸の際の騒音値が高く、着陸の際の騒音値が低い、といった特性となっている。

○　今回のＦ－３５Ｂへの機種更新に伴い、岩国飛行場周辺への騒音の影響が、どの程度まで及ぶのか、比較検討するための騒音予測コンターを、現在、作成しているところである。

○　防衛省としては、その準備が整い次第、地元自治体に示したいと考えている。

次頁に続きます

（８）藤本議長から質問及び鈴木局長からの回答

（藤本議長）

○　Ｆ－３５Ｂへの機種更新にあたり、１部隊の機数が、１２機から１６機に増えるとの事であるが、その理由は、どういったものであるのか。

○　また、機種更新後のＦ３５Ｂの総機数は３２機であると理解してよいか。

○　次に、今回の機種更新の問題は、他の議員からも非常に高い関心が寄せられている。ついては、改めて、全議員に説明並びに質問に答えていただく機会を設けていただきたいと考えているので、特段の対応をよろしくお願いする。

（鈴木局長）

○　米軍の部隊構成については、それぞれの部隊運用の中で、運用上の必要性から各部隊に所属する機数が定まることとなっているものと承知している。

○　今回の機数の変化について、米側から詳細な説明はないが、この度のＦ－３５Ｂの機種更新については、本年１０月以降、段階的に実施され、現在、岩国飛行場において運用中のＦ－３５Ｂと同様に、今回のＦ－３５Ｂも、最終的に約１６機体制で運用されるものと承知している。

○　いずれにせよ、本件についても、米側から情報が得られれば、速やかに説明する。

○　また、岩国市議会に対する説明の要望については、防衛省として、真摯に対応してまいりたいと考えている。

（９）片岡副議長から質問及び鈴木局長からの回答

（片岡副議長）

○　機種更新に伴い、海外から新たに岩国基地へ赴任した者に対するコロナ対策については、どのようになるのか。

（鈴木局長）

○　岩国基地を含む在日米軍は、米軍関係者が我が国に入国する場合、水際措置を含む日本政府の方針に、整合的な措置を執ることとしており、入国後も移動制限等の義務付け等を行っている。

○　この度の、米軍関係者においても、新型コロナウイルス感染拡大防止のための公衆衛生上、必要な措置が適切に行われるものと認識している。

（10）福田市長の要請及び鈴木局長の回答

（福田市長）

○　本市は、米軍基地が所在する自治体として、これまで国の安全保障政策を尊重し、基地の安定的運用には協力してきたところであるが、その運用に当たっては、住民が安心して安全に暮らせる環境が確保されることが、重要であると考えている。

○　そうしたことから、今後、県と共に、騒音の影響をはじめ疑問点などを整理し、文書により照会したいと考えているので回答の程よろしくお願いする。

次頁に続きます

（鈴木局長）

○　文書による回答については、真摯に対応してまいる。

○　最後に、防衛省としても、岩国飛行場周辺の皆様が安心して安全に暮らせる環境を確保することは極めて重要であると認識している。

○　この度のＦ－３５Ｂの岩国飛行場への機種更新についても、地元の皆様の思いをしっかりと受け止めながら、誠心誠意、対応してまいる所存である。

○　引き続き、御理解と御協力を賜るよう、よろしくお願いする。

６　市長コメント

本日は、岩国基地配備機におけるＦ－３５Ｂへの機種更新について、上記の通り説明がありました。

説明を受け、Ｆ－３５Ｂにつきましては、配備された平成２９年１月以降、岩国基地において安全な運用が行われているものと理解しておりますが、機種更新に伴い、今後、騒音による住民生活への影響をはじめ、安全性や岩国飛行場における運用などについて、県とともに文書等により照会し、様々な観点から確認する必要があると考えております。

市といたしまして、本件に関しては、国からの回答や騒音予測コンターなどを精査し、山口県とも協議しながら、総合的に判断をしてまいりたいと考えています。

担当
岩国市総合政策部基地政策課　TEL0827-29-5024　FAX0827-21-3572
岩国市議会事務局庶務課　TEL0827-29-5190　FAX0827-21-1001